

## 2020年度 第1回 名大本番レベル模試 国語採点基準

1 文(文章)で解答する設問の答案については、次のA項の加点要素の合計から次のB項・C項の減点要素の合計を引いた得点をその設問の得点とします。ただし最低点は0点としマイナスの得点はつけません。

A

a 以下の採点基準では、模範解答をいくつかの要素に分割し加点要素とします。答案中にその加点要素に相当する部分があれば、その加点要素に配点された得点を与えます。

b ある加点要素は、その加点要素に配点された得点か0点で採点することを原則とします。たとえば5点配点された加点要素であれば5点か0点で採点することを原則とします。

ただし、その加点要素中の部分点を認める場合もあります。その場合それぞれの採点基準の中に明記されていません。

c ある要素に加点するか否かが、他の要素と無関係に決まる場合と、他の要素との関係で決まる場合があります。前者の場合は、その要素を単独採点(独立採点)すると言いその旨必ず明記されています。後者の場合は、他の要素との関係について以下の採点基準で具体的に指示されています。

d **解答通り**という条件がある場合はいかなる部分点も認めません。

B

a 答案中に大きな誤読と判定される内容(語句)などがある場合は、その内容(語句)を減点要素として示されている場合もあります。

b 加点要素でも減点要素でもない部分もあります。その部分は加点も減点もしません。

C

次に該当するものは、答案の形式上の不備として、一箇所につき1点の減点要素とします。

a 誤字。漢字などの文字の明らかな誤りは誤字とします。

b 脱字。

c 文末の句点の脱落。

\*字数指定のない場合、句点の脱落は誤字とし1点の減点とします。

d その他不適切と判断せざるをえない箇所。

e 不適切な文末処理。設問の問い方に対応していない形で答案の文末を結んでいない場合は、適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備による減点要素とします。

たとえば「:とはどういうことか?」という問いに体言で結んでいないものなどは適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備とします。

また、理由が問われているのに、「から」「ので」などで結んでいないものなども適切な文末処理が行われていないと見て形式上の不備と見ます。

\*ただし、「ことである」などの表現も「こと」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。また、「からである。」などの表現も「から」などで結んでいるものと同様適切な文末処理が行われていると見ます。

また文末の表現を問わない場合もありますが、その場合はその都度明記されています。

2 日本語の表現として不適切なものは程度に応じて減点します。

3 次の各項に該当するものは、部分点の要素があっても、その設問の得点を0点とします。

a 答案が解答欄の欄外にはみ出しているもの。

b 一行の解答欄に二行以上書いた場合もその設問の得点を0点とします。

c 字数指定のある設問で、字数をオーバーしたもの。

d 答案の文章が最後まで完結していないもの。

4 **古文あるいは漢文の訳を記述する設問**の場合も以上に準じますが、文末の句点や文末の処理あるいは答案の完結にこだわらなくともよい場合はその都度明記されています。



■採点の原則

- ① 全ての答案について各要素単独採点とするが、答案が全く日本語の文(章)の体をなしていないと判断される場合は、要素の有無に関係なく0点とする。
- ② 明らかな誤字、語句・接続語・助詞等の誤用はそのつどマイナス1点。
- ③ 正当の要素を含んでいても説明の方向性が全くズレていると判断される答案は0点としてよい。

問一(各2点) 解答通り

a || メザワ      b || 途方      c || 臨界      d || ナ      e || コブ  
f || 休暇      g || ノウド      h || ジョウジュ      i || 駆使      j || 貢献

問二

■形式上の不備

- ・文末表現は要素E参照

基準 配点2点  
1点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A | 頑丈で長寿だと感じられる建築が、 | B | ひ弱で繊細な人間の短命さを嘲笑するかのよう | C | に、 | D | その嫌悪すべき姿に |  
生涯耐え続けることを人間に強いてくること。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…七十字以内 三十四字以下のものは全体不可(0点)

■要素A 「頑丈で長寿だと感じられる建築」…4点

- ・「頑丈」に2点、「長寿」に2点とする。

「頑丈」の表現は「一度作ると容易に作り変えられず、壊れない」等は許容  
この二つを指して「取り返しがつかない」と表現されているので、  
片方への言及にとどまる場合要素として認めない

「取り返しがつかない」は傍線部と同表現なので不可、要素としては認めない

■要素B 「ひ弱で繊細な人間の短命さ」…4点

- ・「ひ弱」と「繊細」はいずれかが示されていけばよい。
  - ・「ひ弱・繊細」に2点(「はかなさ」としても可)
- 「短命」に2点とする。

■要素C 「(人間を)嘲笑するかのよう」…2点

- ・「嘲笑う」「馬鹿にする」「見下す」など「嘲笑」とほぼ同意と見なしうるものは許容。
- 「嘲笑」…あざわらうこと、相手を見下したりばかにしたりした笑いという意味であることに注意

- ・ややズレていると判断される場合は1点だけ与える。
- 要素D「嫌悪すべき姿に生涯耐え続けることを人間に強いてくる」…2点
  - ・本文の「今後ずっと、それを我慢して暮らしていかなければならない」「当然、死ぬまで我慢しなくてはいけない」に基づく説明。本文をほぼなぞった説明も広く許容してよい。
  - 『「気に入らないもの」を「我慢して受け入れる」というニュアンスを表現できているかで判断する  
どちらか片方の言及にとどまる場合は曖昧であるとみなす。
  - ・説明が曖昧であると判断される場合は1点とする。
- 要素E 文末は原則として「〜こと」という形式になっていること。「〜ので・から」など全くズレている場合は1点減点。

### 問三

★ A・Bの(1)は正答のみ加点。言うまでもなく(2)の説明内容と(1)が対応していなければ0点。その点をしっかり見て下さい。

A (1)を「公共集合住宅」とした場合)

- 形式上の不備
- ・文末表現は要素D参照

基準 配点9点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A | | B | | C |  
 何の困難もなく低家賃で上から住宅を与えられたので、人々の勤労意欲が高まることはなく、彼らの消費を

喚起することもなかった。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「何の困難もなく低家賃で(上から)住宅を与えられた」…3点  
 住居の入手に当たって「困難がなかった」こと、住居の「価格が安い」こと、住居が「与えられた」ものであること、三つを全部表現できて初めて得点をあたえる。

■要素B「人々の勤労意欲が高まることはなく」…3点

■要素C「彼らの消費を喚起することもなかった」…3点  
 ・施策がどのような生き方に導いたかの説明を求められているので、直後の内容から考えて、「消費を喚起できなかった」という説明ができていくかの把握を見る。

この施策における消費の喚起の可否について直接的に述べておらず、「消費の喚起には別の政策が必要だった」という形での説明にとどまる場合においては△として一点を与える。

\* 要素A・B・Cそれぞれについてほぼ同内容なら加点してよい。A・Bをまとめて理由とした説明でも許容。いずれの要素も、説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■要素D 人々の生き方についての説明と判断できる文形態と判断できればよい。但し、文末が「くから・ので」のような理由説明の形になっている場合は1点減点。

B (1)を「戸建ての持ち家」とした場合)

■形式上の不備  
・文末表現は要素E参照

基準 配点9点

■模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A  
B  
C  
D  
人々の建築的欲望を昂進したので、住宅ローンを背負った人々が勤勉に働き始め、消費も喚起されて、彼らの政治的保守化も促した。

■採点方法…各要素単独採点

■字数…六十字以内 二十九字以下のものは全体不可(0点)

■要素A「人々の建築的欲望を昂進したので」…2点

■要素B「住宅ローンを背負った人々が勤勉に働き始め」…3点

■要素C「消費も喚起されて」…2点

住宅の周辺のものへの投資など消費の在り方の説明だけならば△1点  
施策の対比として、公共集合住宅ができなかった消費の喚起に成功していることを記述できているか見る

■要素D「彼らの政治的保守化も促した」…2点

言及がただ「保守化」にとどまる場1点。「革命の夢を忘れて保守化」、「政治的保守化」などと記述されていれば2点を与える。

\* 要素A・B・C・Dそれぞれについてほぼ同内容なら加点してよい。A・Bをまとめて理由とした説明でも許容。いずれの要素も、説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■要素E 人々の生き方についての説明と判断できる文形態と判断できればよい。但し、文末が「くから・ので」のような理由説明の形になっている場合は1点減点。

問四(5点)イ 解答通り

★ (2) は完答のみ加点。

(1)

■ 形式上の不備

・ 文末表現は要素G参照

基準 配点 4点  
1点

■ 模範解答例 ※各要素同意表現可。ニュアンスが正しければ許容。

A 強固なヴィジュアル・アイデンティティを持つ大きな建築はプロジェクトとして発表されるだけで 巨大

C 影響力を持つメディアであり、そこに投資する財政政策が膨大な有効需要を創出し、 長期的な景気浮揚と

D 財政出動の赤字を埋める効果を持つと考えられたから。

E

採点方法…各要素単独採点

■ 採点方法…各要素単独採点

■ 字数…百二十字以内 五十九字以下のものは全体不可(0点)

■ 要素A「強固なヴィジュアル・アイデンティティを持つ大きな建築」…3点

■ 要素B「プロジェクトとして発表されるだけで」…2点

■ 建築計画として存在するだけという趣旨ならば可

■ 要素C「巨大な影響力を持つメディアであり」…2点

■ 要素D「それに投資する財政政策が膨大な有効需要を創出し」…3点

■ 創出される有効需要が投資の何倍もあるという観点の説明が必要。

■ ただ有効需要の創出に指摘がとどまる場合は△1点

■ 要素E「長期的な景気浮揚」…2点

■ 経済の活性化・景気の改善などの説明は△1点

■ 要素F「財政出動の赤字を埋める効果を持つ」…2点

■ 投資分を補うという説明では△1点

■ 出資した赤字分の補填の説明ができて2点。

\* 要素A・B・C・D・E・Fは全て本文に見出される表現である。それぞれについてほぼ同内容なら加  
点してよい。いずれの要素も、説明が曖昧であると判断される場合は1点だけ与える。

■ 要素G 文末は「くから・ので・という理由による」など理由説明の形になっていること。そうなら  
いないなら1点減点。

(2) 5点完答 公共の建築 く という理屈

問一(各4点) 解答通り

〔正解〕 ③・⑤(順不同)

〔ポイント〕

※「③・⑤」ができていて、他にいけないものが書いてない場合は【8点】。

※「③・⑤」ができていないが、他にいけないものが書いてある場合は、【8点】から、よけいなもの一つにつき【マイナス4点】とする。例 「③・⑤・①」↓8点マイナス4点＝4点、「③・⑤・①・②」↓8点マイナス8点＝0点、「③・⑤・①・②・④」↓8点マイナス12点＝0点(計算結果は0点を最低点としてマイナスにはならないこととする)

※「③・⑤」のいずれかができていて、他に解答が一個以内である場合は【4点】。例 「③」、「⑤」、「③・①」、「⑤・②」※「③・⑤」のいずれかができていて、他に解答が二個以上ある場合は【0点】。例 「③・①・②」、「⑤・②・④」

問二ア 傍線部を、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。 【9点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

〔該当傍線部〕 A2 入らせたまはぬさきにB1 雪降らなむ。C3 いかにかしからむ」と思ふに、D2 あからさまにまかでたるほど、E1 二日ばかりありても雪は降るものか。

〔模範解答〕 A2 「中宮様が宮中にお戻りにならないうちにB1 雪が降ってほしい。C3 どれほど趣深いことだろう」と思うが、D2 私がちよつと実家へ退出していたあいだに、E1 こともあろうに二日ほどして雪が降ったではないか。

〔ポイント〕

※ 主語の補いとして「私が」とあるべきところを「紫式部が」としている場合は1点マイナスする。

A 【2点】 入らせたまはぬさきに ↓ 「中宮様が宮中にお戻りにならないうちに ※ 「中宮が戻る」の意がある上で、「お戻りになる」のように尊敬の意があれば【1点】。「宮中(宮・皇居)に」はなくてもよい。

※ 「中宮が戻る」の意がある上で、「戻らないうちに・戻る前に」の意があれば【1点】。 ※ 右の二つはそれぞれ別に得点できる。

B 【1点】 雪降らなむ。 ↓ 雪が降ってほしい。 ※ 「降ってほしい」は「降ってもらいたい・降ったらよいのに・降ったらなあ」でもよい。他者への願望の意味を把握できているか見る。 ※ 「雪が」は、文意が通れば「雪に」でもよい。 ※ 「雪が降るだろう・きっと雪が降るだろう」などは×。

C 【3点】 いかにかしからむ」と思ふに、 ↓ どれほど趣深いことだろう」と思うが、 1 「どれほど」は「どんなに・さぞ・何と」等でもよい。 2 「趣深いことだろう」は「風情があるだろう・美しいだろう・すばらしいだろう」等でもよい。推量の意が付いていない場合は×。 3 「思うが」は「思ったが・思ったのに・思うけれども」等、逆接になっていればよい。 ※ 右の1〜3のうち、一つできていないごとに【3点】から1点ずつマイナスする(計算結果は0点を最低点としてマイナスにはならないこととする)。

D 【2点】 あからさまにまかでたるほど、 ↓ 私がちよつと実家へ退出していたあいだに、  
※ 「私が・実家へ」はなくてもよい。

- 1 「ちょっと」は「少し・ほんのしばらく・しばらく」等でもよい。
- 2 「退出していた」は「退出している・退出した・邸を出ていた・下がっていた」等でもよい。
- 3 「あいだに」は「うちに・時に」でもよい。 ※右の1〜3のうち、一つできていないことに【2点】から1点ずつマイナスする（計算結果は0点を最低点としてマイナスにはならないこととする）。

E【1点】二日ばかりありても雪は降るものか。↓こともあろうくに二日ほどして雪が降ったではないか。

※「こともあろうくに」（強意の副助詞「しも」の訳）はなくてもよく、「なんとまあ・驚いたことに」等でもよい。 ※「二日ほどして雪が降ったではないか」ができていればよい。

※「降ったではないか」は、詠嘆的であれば「降ったなあ・降ったことよ」等でもよい。

問二イ 傍線部を、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。【9点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

「該当傍線部」A2そぞろごとにB2つれづれをば慰めつつ、C2世にあるべきD2人数とは思はずながら、E2さしあたりて恥づかし、いみじと思ひ知る方ばかり逃れたりし

「模範解答」 A2とりとめのない話にB2所在なさを慰めつつ、C2自分などこの世に生きているべきD2人の数には入らないと思ひながらも、E2さしあたって恥づかしい、たいそうつらいと思ひ知るようなことだけは避けてきた

「ポイント」

A【2点】そぞろごとに ↓ とりとめのない話に

※「とりとめのない」は「とるにたらない・つまらない・くだらない」でもよい。

※「話」は「こと」でもよい。「とりとめなく」となっていれば「話・こと」はなくてもよい。

※「に」は「で・を」などでもよい。

B【2点】つれづれをば慰めつつ、 ↓ 所在なさを慰めつつ、

※「所在なさ」は「退屈・退屈さ・手持ちぶさた・することがないの」等でもよい。

※「つつ」は「ながら・て・ては・うちに」等でもよい。

C【2点】世にあるべき ↓ 自分などこの世に生きているべき ↓ (とは思はず)

※「自分など」はなくてもよい。

※「生きているべき(人間)でないと思う・生きているべき(人間)だとは思わない」の意があればよい。なお、この意はDまでのつながりの中で読み取ればよい。

※「生きている」は「存在する」でもよい。この意があれば「この世に」はなくてもよい。また、「生きている」は「この世にいる・世にいる」でもよいが、「この世に・世に」がない、ただの「いる」は×。

※「べき」は「てよい・価値のある・甲斐がある・ことができる」でもよい。

D【1点】人数とは思はずながら、 ↓ 人の数には入らないと思ひながらも、

※Cからのつながりなく「一人前とは思えない・人並みではない」等の意味があってもよしとする。

※「ながらも」は「ながら・つつ」等でもよく、また「けれども・が」等の逆接表現でもよい。

E【2点】さしあたりて恥づかし、いみじと思ひ知る方ばかり逃れたりし ↓ さしあたって恥づかしい、たいそうつらいと思ひ知るようなことだけは避けてきた

※「だけ」は「ばかり」でもよく、なくてもよい。

1「さしあたって」は「当面・今のところ」等でもよい。

2「恥づかしい」は「気がひける・気後れする」等でもよい。ただし「世を恥づかしく思う」は×。「立派だ」は×。

3「たいそうつらい」は「つらい・苦しい・嫌だ・ひどい」等でもよい。「はなはだしい」や「立派だ・すばらしい」等は×。

4「こと」は「面・方面・方」でもよい。ただし、「ことに、・面に、」などとなっている場合は×。「人」は×。

5「避けていた」は「避けた・避けてきた・逃げていた・逃げてきた・逃げた」等でもよい。

※右の1～5のうち、一つできていないごとに【3点】から1点ずつマイナスする(計算結果は0点を最低点としてマイナスにはならないこととする)。



問三 A 二重傍線部について、誰のどのような心情であるか、わかりやすく説明せよ。 【8点】

「該当傍線部」 心細さ

「模範解答」 A 2紫式部の、B 2長年、所在なく物思いがちに過ぎ、C 1季節が移りゆくにつけ、D 2この先自分はどうなるのかとE 1気が晴れず不安に思う心情。

「ポイント」

A 【2点】紫式部の、

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。 ※「作者の・筆者の」でもよい。 ※位置は最初でなくてもよい。

B 【2点】長年、所在なく物思いがちに過ぎ、

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。 ※「長年思い悩んできた・寂しく過ごしてきた」等でもよい。

※「夫に先立たれ、宮仕えにもなじめず悩む中」のように、思い悩みの原因を「夫の死」や「なじめない宮仕え」に限定している場合は【1点】。

C 【1点】季節が移りゆくにつけ、

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。 ※「時が過ぎると」の意があればよい。

D 【2点】この先自分はどうなるのかと

※Dが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。 ※「将来を」等でもよい。

E 【1点】気が晴れず不安に思う心情。

※BもCもDも0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「不安・心細い・気が晴れない(憂鬱)・さびしさ」のいずれかが説明されていればよい。

問三 B 二重傍線部について、誰のどのような心情であるか、わかりやすく説明せよ。【8点】

「該当傍線部」 憎ませたまふ

「模範解答」 A 1中宮彰子の、せっかく雪が降り、趣深い風景が見られるのに、共に楽しめる紫式部が実家に退出していることを、残念に思う心情。

「ポイント」

A【2点】中宮彰子の、※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「中宮の・彰子の・宮の」でもよい。「人々の・女房たちの」等は×。

B【2点】せっかく雪が降り、(の)に、(

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「雪が降ったのに・雪が降った時に」の意があればよい。

C【1点】趣深い風景が見られるのに、

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「趣深いのに」の意があればよい。

D【1点】共に楽しめる

※Eが0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※「趣を解することができる」等でもよい。

E【2点】紫式部が実家に退出していることを、残念に思う心情。

※「紫式部の不在を残念に思う心情」の意があればよい。

※「紫式部」は「式部」でもよい。

※「実家に」はなくてもよい。

※「退出していること」は「いないこと・不在」等でもよい。

※「残念に」は「惜しく・恨めしく」でもよい。

問四 (㊦) 和歌を、比喻表現に注意しながら、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。【9点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

「該当和歌」 A 2 浮き寝せし B 2 水の上のみ恋しくて C 2 D 3 鴨の上毛に冴えぞ劣らぬ

「模範解答」 A 2 鴨が水上に浮いて寝るように、つらく思いつつ寝た B 2 宮中のことばかりが今は恋しく思われて、C 2 実家で独り寝をしていると、D 3 その冷え冷えとした寒さは、鴨の上毛に降る霜にも劣らないほどであるよ。

「ポイント」

A 【2点】 浮き寝せし ↓ 鴨が水上に浮いて寝るように、つらく思いつつ寝た

※ 「鴨が浮いて寝る」の意があれば【1点】。

※ 「つらい」(「浮き」との掛詞「憂き」の訳)の意があれば【1点】。

※ 右の両方の意味があれば【2点】。

B 【2点】 水の上のみ恋しくて ↓ 宮中のことばかりが今は恋しく思われて、

※ 「宮中(皇居・宮・中宮のもと)が恋しい」の意があれば【2点】。

※ 右の意がなく、「水の上が恋しい」の意がある場合は【1点】。

C 【2点】 「補い」 ↓ 実家で独り寝をしていると、

※ D が×0点の場合は得点できない。ただし、誤字等で0点となっている場合は得点できる。

※ 「実家にいると・実家では」の意があれば【1点】。

※ 「実家で寝ていると・実家で独り寝している」との意があれば【2点】。

D 【3点】 鴨の上毛に冴えぞ劣らぬ ↓ その冷え冷えとした寒さは、鴨の上毛に降る霜にも劣らないほどであるよ。

※ 「その冷え冷えとした」はなくてよい。

※ 「寒さは霜に劣らない」の意があれば【2点】。

※ 右の意がある上で「寒さは鴨の上毛の霜にも劣らない」の意があれば【3点】。

問四 (二)

和歌を、

比喩表現に注意しながら、適宜言葉を補って、わかりやすく現代語訳せよ。【9点】

※ 現代語訳問題では、全体的な意味に不具合があっても、各部分の訳があっていれば、その部分の点は与えることとします。

〔該当和歌〕

A 2 うちほらふ友なきころの B 2 寝覚めには C 2 つがひし D 3 鴛鴦ぞ (B) 夜半に恋しき

〔模範解答〕

A 2 羽の上に積もった霜を払い合うような友人もいない折には、B 2 夜中、寝覚めた時に、C 2 二人仲良くした D 3 鴛鴦のようなあなたのことが恋しく思われます。

〔ポイント〕

A 【2点】 うちほらふ友なきころの ↓ 羽の上に積もった霜を払い合うような友人もいない折には、

※ 「友がいない時」の意があれば【1点】。

※ 「霜をこひくうような友がいない時」の意があれば【2点】。

B 【2点】 寝覚めには ↓ 夜半に ↓ 夜中、寝覚めた時に、

※ 「寝覚めた時に」の意があれば【1点】。

※ 「夜中に(夜に)」の意があれば【1点】。

※ 右の両方の意味があれば【2点】。

C 【2点】 つがひし ↓ 二人仲良くした

※ 「親しくした・二羽の」等でもよい。

※ 「つがう」のままは【1点】。

D 【3点】 鴛鴦ぞ ↓ 恋しき ↓ 鴛鴦のようなあなたのことが恋しく思われます。

※ 「あなた」の意がない「鴛鴦が恋しい」は【1点】。

※ 「鴛鴦」の意がない「人(相手)が恋しい」は【1点】。

※ 「鴛鴦」の意がない「あなたが恋しい」は【2点】。

※ 「鴛鴦のような人(相手)が恋しい」は【2点】。

対象として「あなた」などと対象を明記することが必要

※ 「鴛鴦のようなあなたが恋しい」は【3点】。

問一 【各2点×3】 解答通り

- a ほしいままに
- b かつ
- c しむ

※カタカナ書きは×

※a 「ほしいまま」は△1点

※b 「か」c 「し」など送り仮名のないものは×

問二 基準 配点6点

〔模範解答〕 A 2 隠居した陳侍御と自分とは身分の上下はなく、B 2 自分が道を譲らなければならない  
いわれはないから、C 2 道は譲らないということ。

〔ポイント〕

A 【2点】 「吾と若とは桑梓なり」の内容

※ 「陳侍御」と「自分（市見）」とが、「・どちらも官についていない・身分の上下はない・同じ立場・ここでは同等」なのだからということが言えていれば2点

※ 「隠居した」「無官の」のような、修飾語はなくても可。「陳侍御」と「自分（市見）」の対比が不十分なものは△1点減点。

B 【2点】 同等だから道を譲らない理由

※自分の方が道を譲らなければならない理由はないから・自分が下手に出る（へりくだる）いわれはないかなど道を譲らない理由の指摘。直接的に示しても可

C 【2点】 「曷ぞ避くことを為さんや」の内容

※市児の意志として譲らないという行為への言及ができているか見る。「道は譲らない」という意思が示されて2点

※bのレベルの表現はb2点分のみ。

※「どうして避けなければならないのか」は不可。

〔模範解答〕

A 3 請ふ B 2 文を官に送り C 1 法を以て A 文を治めよ (と)

〔ポイント〕

※すべてひらがなにしているものは、完答できていれば△3点。

※読み順のミス、脱字があるものは×

A 【3点】 「請ふ・・・之を治めよ(命令形)」の願望の形

※ 「請う」になっているものは△1点減点。

※ 「文を治めん」になっているものは△2点減点。

※ 「之を」の「を」を間違えているものは×

B 【2点】 「之を官に送り」の部分

※ 「文」の送り仮名は「を」、「官」の送り仮名は「に」でなければならない。

※ 「送り」が連用形になっていないものは×

※ 「送りにて」でも可。

C 【1点】 「法を以て」の部分

※ 「法」の送り仮名は「を」でなければならない。

※ 「以て」は「以って」でも可。

※ 文末の「と」の有無は不問。

問四 傍線3 基準 配点4点

〔模範解答〕 まだ一年もたたないうちに

〔ポイント〕

- ※ 「一年もたたないうちに」「まだ一年にもならないころ」「まだ一年もたっていないのに」など可。
- ※ 「一年後」「一年たって」、「期年」のままは不可。

問四 傍線5 基準 配点6点

〔模範解答〕 A3どうしてB3今日のように死罪に問われる事態を招くことがAあったであろうか

〔ポイント〕

A【3点】「豈に・・・有らんや」の反語の訳出

- ※ 「どうしてbがあったであろうか」のあとの「いや、なかったであろう」は、あってもなくてもよい。
- ※ 「bはなかったであろう」の形も可。

B【3点】「今日」の内容

- ※ 「今日のようなことが」は△2点減点。「今日が」は不可。
- ※ 「死罪に問われるような事態を招く」があれば、「今日のように」のような「今日」そのものに関する表現はなくても可。
- ※ 「人を殴り殺して」・・・イ
- ※ 「罪を犯し」・・・ロ
- ※ 「死罪に問われて」・・・ハ
- ※ 「投獄されて」・・・ニ
- ※ イ・ロ・ニは単独で用いられた場合△2点 ハは単独3点、イ〳ニの内2個以上の要素があれば3点とする。

「模範解答」 A2自分が人を殴り殺して死罪に問われることになったのは、B2かつて陳公に無礼をはたらいた折にC1法に照らして処罰せず、D1責めを加えないばかりか、E1何度も情けをかけられたことで、F1何も恐れないG2やりたい放題な人間になったからだということ。

「ポイント」

A【2点】「陳公我を殺せり」の状況の説明

※人を殺す+死罪に問われる両方の指摘で2点。片方では△1点。

※実際に「殺した」に「死んでいる」わけでない。その様になる現状の説明が必要。

※本文では「人を殴るを以て罪を致し、死に問われ」ていること。

※「死罪に問われることになったのは」のように、「死罪」になったことが欠けているものは△1点減点  
・人を殴り殺すことになったのは・人を殺して投獄されたのは・罪を犯すことになったのは、など△1点減点。

※「陳公が私を殺すのは」「陳公に殺されることになったのは」のようなものは不可。

B【2点】「曩者に、予酒後を以て公を犯す」の要素

※「自分が陳公に無礼をはたらいた時に」ということが言及できていれば2点。

※「酔っ払って」の有無は不問。

※「かつて」「以前」は、現代語訳ではないためなくても可。

※「無礼を働く」の同意表現として、「無作法・不躰・礼を欠く」なども可。

C【1点】「官法を以て我を処」さなかったという内容

※第一段落の傍線部2に対して、陳公が「一笑して羅む」という態度をとったことをさす。

D【1点】「公乃ち責めを加へずして」の要素

※「(自分の無礼を)責めようとしなかったことが言えていけばよい。

E【1点】「反って慰恵交(こもごも)至らしむ」の要素

※第一段落で、息子に謝罪に行かせたり、後日酒肉を贈ったりしたこと、第二段落で、投獄された後も酒食を差し入れて見舞ったことを指す。

※具体的に述べてもよいが、解答例のようにまとめて述べても良い。

F【1点】「(公の尚ほ此のごときを以て)他に何をか慍れんや」の要素

※「(公是の時に於いて、官法を以て我を処せば)我当に慍れを識るべし」の部分も同じ。

G【2点】「益(ますます)肆(ほしいまま)に忌むこと無く」の要素

※「やりたい放題な人間になった」という内容があればよい。

※「いっそう」「ますます」はなくても可。

※「やりたい放題」は、「歯止めがきかない」などの別の表現でもよい。「ますますひどい(悪い)」「程度でも可。

※文末の「くからだ」「くということ」の有無は不問。



問六 基準 配点2.2点

※A～Gの各要素について読解のミスがあれば×、不足その他があれば配点分から△減点とする。

「模範解答」 A 3相手の無礼に対しても徳を以て報いるというB 4優しさや寛容さは立派ではあるが、C 3間違った行為を法によって処罰せず看過するばかりか、D 3贈り物を盾にして過度な温情をかけることで、E 2何をしても責められないという誤解を与え、F 4増長してやりたい放題に悪事をはたらくような人間を生んだことは、G 3大きな過ちと言うべきである。

「ポイント」

A【3点】Bの「優容は盛徳」であることの内容

※陳公が市見の無礼に対して、責め苛まず、徳を施す態度をとったことがまとめられていること。

B【4点】「優容は盛徳なるも」の要素

※「優容」は「優」「容」の各要素にそれぞれ1点。

※「優」は「やさしさ」「情深さ」など。「優雅さ」「優美さ」「上品さ」「みやびさ」は×1点減点。

※「容」は「寛容さ」「包容力」など。「容姿」「受容」「許容」などは×1点減点。

※「盛徳」は「立派な徳」であるが、Aで「徳」に触れていればこは「立派だけでよい。Aで徳についての言及がない場合、片方が欠けていれば△1点減点。

※「立派な」は「すぐれた」「すばらしい」などでも可。「盛んな」のままは△1点減点。

C【3点】「間違った行為を」の要素・「法によって処罰せず」の要素・「看過するばかりか」の要素が各1点。

※「間違った行為」は、無礼な行い・罰すべき罪などと具体亭に述べても可。

※「法によって処罰せず」は、「法によって」がなくても可。罰せず・責めず程度でも可。

※「看過する」は見逃す・放っておくなども可。

D【3点】

※「贈り物を届けたりして」の要素が1点。「過度な温情をかけること」の要素が2点。

※「贈り物を届けたりして」は、本文に即しより具体的になってもよい。「下手に出たりして」・「酒食を届けたりして」「酒食を差し入れたりして」などでも可。

※「温情をかける」は、「過度な」の要素があれば1点、「温情をかけた」の要素があれば1点。

※「過度な」は、「余計な」「かけなくてもよい」などでも可。

E【3点】Fのようになる段階の本文のまとめ

※「何をしても責められない」と思い込ませてしまったことがあれば○。

※「誤解を与え」はなくても可。

F【4点】「肆（ほしいまま）に其の悪を成さしむるは」の要素

※「増長して」はなくてもよい。

※「やりたい放題に悪事を働くような人間を生んだ（作った）は、「若者にやりたい放題に悪いことをさせた」のように述べてもよい。

※・「肆(ほしいまま)」のポイント・「悪を成さしむる」のポイント・そのような人間を生んだ要素の3点について、それぞれ2点とし、計4点からの減点法で採点する。

G 【3点】「則ち過ちなり」の要素

※「大きな」はなくても可。